

6月の見通し 高値更新を続ける株式市場

株式の評価は引き続きオーバーウェイト(強気)

世界的に景気が回復基調にあること、依然として流動性供給が潤沢なことからリスク資産にポジティブなサインが出ています。株式の評価は引き続きオーバーウェイトとします。なかでも、**景気の勢いが力強い欧州と新興国株式**が注目です。

引き続きリスク・オン

世界の株式市場は5月も上昇が続き、MSCI世界株価指数は再び史上最高値を更新しました。

背景にあるのは、世界的な景気の拡大と堅調な企業業績です。なかでも、欧州株式は、5月に米国株式をアウトパフォームしました。欧州中央銀行(ECB)の量的金融緩和政策により欧州経済の回復が進んでいることに加えて、フランス大統領選挙で親欧州連合(EU)のマクロン氏が勝利し、政治リスクが後退したことが好感され、投資資金の流入が増加しています。米国のS&P500種株価指数も史上最高値の更新を続けており、年初来のトータルリターンは+9%弱となっています。

けん引役は、年初来で+20%程度上昇した情報技術セクターです。情報技術セクターによるプラスの寄与度を除けば、S&P500種株価指数の年初来上昇率は+2%程度に過ぎません。

「Sell in May・・・」相場の格言に従う必要なし！

「Sell in May and go away(株は5月に売って、どこかに出かけろ)」という相場の格言があるように、投資家は夏季シーズンには株式の保有を減らす傾向にあります。

歴史的にも、米国株式は6月から9月までは軟調な展開になる事が多いため、相場の高い5月のうちに一旦売却しておくべしとの意味合いです。しかし、今年はこの格言が当てはまらない年になりそうです。

背景にあるのは世界的な景気の回復ですが、特に新興国経済の改善には目を見張るものがあります。

また、企業の業績見通しが堅調であることや、主要国中央銀行の金融政策が依然として緩和的である点も株式市場の下支え材料となります。

様々な尺度から見て株式市場には割高感があるものの、欧州や新興国株式には依然として上値余地があると見ています。

一方、債券市場の評価はアンダーウェイトで据え置きます。現状、債券利回りは低下傾向にありますが、**いずれ反転すると見ています。世界経済が拡大するなか、金利は上昇に転じると予想され、再び価格下落局面がやって来ると見ています。**

景気サイクルからは、世界的な景気回復が今後も続くことが示唆されています。世界の景気先行指数は10ヵ月連続で長期平均を上回ると同時に、モメンタムも回復してきています。足元では2014年1月以来の水準まで上昇しており、2017年の世界経済が+3.4%のペースで成長することを示唆しています。

当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものではありません。運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。